

第 6 期宇治市生涯学習審議会 会議録

名 称	第 6 期宇治市生涯学習審議会 第 5 回審議会				
日 時	平成 26 年 2 月 12 日 (水) 午後 2 時 00 分 ~ 4 時 00 分				
場 所	生涯学習センター 2 階 一般研修室				
出席者	委 員	○ 奥西 隆三	○ 向山 ひろ子	○ 清水 桂子	
		○ 門脇 洋子	○ 弓指 義弘	○ 六嶋 由美子	
		○ 迫 きよみ	○ 石田 光春	○ 木村 孝	
		○ 杉本 厚夫	○ 桑原 千幸	○ 長積 仁	
		○ 森川 知史	○ 小宮山 恭子	○ 西山 正一	
	事 務 局	○ 藤原 千鶴 (教育部次長(兼)生涯学習課長(兼)生涯学習センター所長)			
		× 山下 一也 (教育改革推進室長)			
		○ 安達 昌子 (生涯学習課主幹 (兼) 生涯学習センター主幹)			
		○ 川瀬 章治 (生涯学習課主幹)			
		× 西村 比呂支 (生涯学習課生涯スポーツ係長)			
		× 北池 顕子 (生涯学習課事業係長 (兼) 生涯学習センター主査)			
		○ 前田 紘子 (生涯学習課生涯学習係長)			
		○ 粕谷 祐次 (生涯学習課生涯学習係主任)			
○ 西田 知世 (生涯学習課生涯学習係主事)					
傍聴者	0 名				

会議要旨は、下記のとおりである。

前回の会議録について、修正があった。

会議録 4 ページ上から 9 行目

×訂正前：「人材バンク登録講師は 11 件 (個人・団体) となっている。」

○訂正後：「人材バンク登録講師は 10 件 (個人・団体) となっている。」

会議録 9 ページ下から 9 行目

×訂正前：「子ども達が利用するバス停があり、高齢者とのふれあいがある。」

○訂正後：「子ども達のスクールバス乗り場があり、高齢者とのふれあいがある。」

(事務局)

1. 報告事項

・平成 25 年度山城地方社会教育委員連絡協議会研修会について

平成 26 年 1 月 24 日(金)八幡市生涯学習センターにて開催された。出席委員 6 名。全体会の後、分科会は 3 つのラウンドテーブルに分かれ行われた。第 2 分科会では当審議会の六嶋委員が「子どもたちによる『源氏物語宇治十帖』の朗読劇の活動を通じて」というテーマで課題提起され、広報活動に関してなど質問や意見が多数出された。

(委員)

他の 2 つのラウンドテーブルに比べ、具体的な課題となったが、多数の意見をいただき、大変参考になった。

(事務局)

・平成 25 年宇治市ジュニア文化賞等及び宇治市スポーツ賞について

いずれも平成 26 年 1 月 30 日(木)に選考委員会を行い、3 月 1 日(土)が表彰式となる。審査対象となるのは平成 25 年中の活動である。

・今後の予定について

➤宇治市生涯学習人材バンク研修会の開催について

平成 26 年 2 月 27 日(木) 19 時～20 時半、「人の心をつかむマーケティング“サッカー選手にバットを売るとき”と“サッカー選手がバットを買うとき”の違い～」と題し、宇治市生涯学習センターにて開催する。主に人材バンク登録講師を対象に、地域の学習ニーズをつかんで自ら活動を広げるための講習を行う。当審議会の長積委員に講師を依頼している。

・平成 25 年度スポーツ振興計画の取り組みについて

平成 25 年度は、総合型地域スポーツクラブへの支援 大会・教室・ひろばの充実 情報提供施策の充実 スポーツを行う「場所」・「施設」の創出 京都サンガ F.C. との協働関係の構築について取り組んだ。平成 26 年度には現行計画の見直しを行う予定である。

(委員)

スポーツ振興計画の見直しに際して、新たに委員を選出するという理解でよいか。また、見直しということで、大きな変更・修正は行われぬのか。

(事務局)

策定時の委員会は解散しているため、見直し時には新たに選出ということになる。見直しなので、変更の規模についても、審議の中で決まってくるものと理解している。

(委員)

委員選出の際には、例えばまちづくり関係の人など、スポーツ関係以外の分野からの候補も考慮していただければと思う。

(委員)

最近ではスポーツを「する」「見る」ではなく「支えたい」というスポーツボランティアが取り上げられている。宇治でも様々な団体があるので、そういったボランティア

体制ができればと思う。

(委員)

小さな子どもの親など、様々な状況でスポーツをできない・していない人がたくさんいるので、そういった人たちの意見が反映されてもいいと思う。

• 宇治公民館の機能移転に関する検討について

(仮称)宇治川太閤堤跡歴史公園の地域・観光交流センターの整備に合わせて宇治公民館の機能を当該施設に移転する方向で検討している。

(委員)

機能移転後の跡地の利用についても注目されている。どのように考えられているか、今わかっている範囲で教えてほしい。

(事務局)

移転の話が出たばかりで、これから検討する段階であり、現時点では何も決まっていない。

(委員)

もともとは駐車場だった。今後の観光振興のためにも駐車場にしてもらいたい。

(委員)

先日行われた「宇治まなびんぐ2014」の報告があれば聞かせてほしい。

(事務局)

雨天の影響もあってか全体として来場者はやや減少した。実行委員・出展者のほか、高校生のボランティアが来て、高齢者とも一緒に活動してくれたのは良かった。

当審議会の門脇委員長職務代理にもお手玉を披露してもらった。他にも折り紙の講座や、人材バンク登録講師による南京玉すだれ講習等があった。京都芸術高等学校の生徒による、紙飛行機作りの催しもあった。

(委員)

地域・観光交流センターについて、複合施設というのは面白いと思う。たくさんの人が来ると思うので、公民館独自の事業を増やしてほしい。観光の要素も加わった新しい事業ができるのではないかな。また、路上駐車が増えないように、駐車場の確保は必要だと思う。現在の宇治公民館の機能が移転すると、槇島コミュニティセンターまでは距離があるため、その間の地域が公共施設の空白地帯になるのではないかなという心配がある。

2. 協議事項

・ 今期の研究テーマについて

(委員長)

前回に引き続き、今期のテーマを決めていきたい。

現在検討中の『宇治市教育振興基本計画』の中では、学校教育と社会教育をどうつなげるかという課題の提起があるが、具体的な方法を考えていかないと有効性が無い。実行するには予算が必要になってくるので、当審議会の提案で行政に働きかけたいと思う。学校教育と社会教育の関わりについては、実際に地域から多くの方が学校に入ってきているが、学校によって温度差があると感じる。地域ごとの動きをコーディネートする必要があると議論されてきたが、学校教育と社会教育の両方を見渡せる部署がなく、例えばそういう仕組みを作っていく方向が考えられる。

(事務局)

今回は今期第 1～3 回審議会の意見をまとめた資料を配布した。第 1 回では体罰、生活に根付いたスポーツ、遊びや学びとの関係でスポーツを考えること、絆による学校・地域の見直し、子どもの育成に関して意見が出た。第 2 回ではこれまでの報告書を閲覧する時間を設けた。家族、つながり、孤立化、子育てなどの話題が出た。第 3 回では、学んだことを外部に活かす「社会還元」がキーワードとして挙げられた。学校と地域、学校教育と社会教育の連携、孤立や地域との関わりでの家庭教育、防災やボランティアによる地域のコミュニティについて意見が出た。第 4 回ではイベントやスポーツのボランティアなどの話題が出た。

(委員長)

宇治市教育振興基本計画の、「目指す人間像」の一つに、「地域や社会と協働し、世界に誇るあすの宇治をつくる人」とある。計画案に対する意見はパブリック・コメントとしてまとめている段階にある。仕掛けの議論を進めていき、今期の提案としたい。

(委員)

山城地方社会教育委員連絡協議会研修会に出席した際に様々な自治体の社会教育委員の意見を聞いたが、共通する課題は人づくりであると感じた。社会教育の担い手が高齢化等でいなくなっている中、学校教育とも連携できるような、次世代のリーダーを作っていくことが社会教育委員の役割ではないかと思った。

(委員)

当審議会の第 2 期報告書で、「地域で子育てをする社会を作る」と提案されたが、できていない。潜在的に地域活動などをしたい人が社会にはいるはずで、みな達成感を求めていると思う。個々人を大事にし、達成感を感じられるような取り組みをしていくべきだと思う。同報告書に「人を育てる環境作りが必要」と書いてあるが、具体的

な方法が出されていないので、このあたりを掘り下げて議論してはどうかと思う。

(委員長)

潜在的な人材を拾い上げられていない。そういう人たちが動いていけるような仕掛けが必要になると思う。宇治市教育振興基本計画「目指す人間像」の2つ目から、「地域や社会と協働し、あすの宇治をつくる仕掛け作り」をテーマにしてはどうか。仕掛けづくりに力点を置きたい。当審議会はあくまで審議をする場だが、報告書の内容を具体的に動かせるような提案をしたいと思っている。

(委員)

より具体的な提案が必要だと思う。私がPTAに関わっていたのは25年前になる。その時から地域の教育力が大切だと言ってきたが、なかなか効果が出なかった。どうすればうまくいくかの事例を交えてはどうか。

(委員)

具体的な一つの事例について調べてみてはどうか。例えば、子ども会の数が急速に減少している。地域のことを面倒くさいと感じる人が増え、組織率が下がってきている。子ども会の組織率は地域の活動力に直結すると思う。文化面では、地蔵盆が今では夏祭りになった地域もある。それらを取り巻く状況や、どのような変化があり、どのような解決方法があったのかなど、1年間ほど全員で様々な視点から、よく調べてみた方がいいのではないかと思う。

(委員長)

抽象的な議論をいくら続けても何も変わらないので、具体的な事例を取り上げることは必要だと思う。地域力の減退についての検証は、研究が進んでおり、多数の本が書かれている。新しい方向性を示すことはまだできていないが、どういう事態が進行しているのかは、全国的にどこでも同じような動きであると思うので、むしろ何かを作り出していく仕掛けを考える方がいいのではないかと思う。

(委員)

私なら子育てサークルの増減などはわかっている。子ども会やスポーツ関係、PTAなどみんながそれぞれ詳しい分野の意見や知識を出し合って、共通点を見出したりできると思う。

(委員長)

具体的にそういう意見を出し合うのはもちろん必要だと思う。仕掛けづくりの提案がうまくできるかどうかは私もあまり自信がない。これまではどうだったか。

(委員)

当審議会は諮問機関なので、本来は市教委の諮問に応じて審議し、答申するものであるが、現状諮問がないのでこちらで研究し、報告書で提案する形になっている。委員長が言うように報告書を出すだけになっているのも確かであるが、審議会の機能として、そこを一步踏み越えて何かをしていくべきかどうかについては考慮する必要がある。

(委員長)

ただ理想を示すだけに終わらず、出すことによって何かを進めるような提案を目指したい。できるかどうかはわからない。

(委員)

PDCA サイクルの C (チェック = 評価) がいないのが問題。これまでの審議会の提案がどれだけ実現されているか検証し、A (アクション = 改善) を促すことは出来ると思う。これまではいつも P (プラン = 計画) を出して、行政に D (ドゥ = 実行) を任せていた。審議会の性質としてそれをすべきなのか考える必要はあるが、サイクルに関わって検証することまでは可能かもしれない。

(委員長)

確かに検証は必要かもしれない。今までの提案で何が変わったのか調べてみることには価値がある。

(委員)

山城地方社会教育委員連絡協議会研修会に出たときに、私は当審議会からひとりでラウンドテーブルに参加することになったが、社会教育委員と教育委員での懇親会や交流の場を持つところがあるという話を聞いた。そういう機会はいいと思う。検証するにもいいと思う。

(委員)

検証は意味があることだと思う。審議会ですべきことではないのかもしれないが、地域レベルでの動きが見えないと、提案をした立場としては不完全燃焼だと感じる。

(委員長)

他市町では社会教育委員会が実際に活動をしている場合もあるが、我々はそうすべきでないと思っている。様々な活動を知る必要はある。何が問題かということはこれまでも出してきたが、今後は「具体的にこうすれば良くなる」という踏み込んだ提案を出していきたい。教育振興基本計画の見直し時には、社会教育委員や学校関連の人たちが集まれるような場があれば良いと思っている。これまでの提案が実現できて

いるかどうかを検証することには意味がある。もう一步進めてどうすれば実現できるのかまで踏み込んでいけば形になると思う。これまでにうまくいった事例はあったか。

(委員)

以前に公民館運営審議会で、人材バンクを活性化できたらという意見が出たことがある。

(委員長)

より活発に動くような仕組み作りができるかもしれない。スポーツでは、多くの団体が長期間関わっているものがあると思う。何かそのあたりで意見はないか。

(委員)

宇治川マラソン大会が 2 年ぶりの開催となった。自発的に集まったボランティアは 750 人、ガードマンも経験のある人がたくさん集まってきている。前市長も走路員で立ってくれるという。ボランティアの人々は大会の開催を待っていており、人集めには困らなかった。市内の全団体を巻き込もうと始め、全体としてうまくいっている。

(委員)

地域の団体や祭りの役員をするのをいやがる人は多いが、宇治川マラソン大会だけは例外的にいやがらず、うまく根付いているようだ。

(委員)

福祉委員になることはいやがるが、餅つき大会の手伝いのように単発のイベントなら来てくれる。

(委員)

夏祭りもそうだが、単発なら年に一回だから引き受けやすいのか。それとも宇治川マラソン大会が特別なのもかもしれない。ひとつ引き受けるといくつも役が回ってくるので断ってしまう人が多いようだ。

(委員長)

単発なら手を挙げて、いくつもまとめてとなると手を挙げなくなるのだろうか。

(委員)

餅つきやマラソンはやることが明確だからか。

(委員)

マラソンは応援するだけでも、関われる喜びがある。達成感があるのも要因では。

(委員)

各持ち場を任せられ、個々に責任感を持ってやるので達成感があるのかもしれない。

(委員)

地域の小学校で年 2 回餅つきがあり、毎回手伝いに行っている。必要な米の量など全く知らずに、言われるままにひたすらボイラーに放り込んでいるが、達成感はある。事前準備もしないで、行くだけで良いというのがいいのかもしれない。

(委員)

それでもいいのではないか。スポーツボランティアでも、声かけだけでも達成感があるようだ。支えるスポーツという形もある。その場において応援するだけで、人や社会とのつながりを実感できる。

(委員)

オリンピックでも、選手よりスタッフの方が多いという。

(委員長)

何かをする時、本当はしたい人がいないわけではないのに、継続的な取り組みとなると尻込みしてしまう人が多い。求められるのは、底支えしてくれる人を見つけ出せるような仕組み作り。長期の仕事でもやるような人は少数だが、みんなを引っ張っていてくれる。そういう人たちがいなくなると、仕切る人がいなくなってしまう。

(委員)

生涯学習センターには「セカンドライフ夢を語る会」があるが、退職後の人が社会とのつながりを持つきっかけづくりに来ているのか。どのような人が来るのか。

(事務局)

講座を開始してもう 10 年になり、杉本委員にも講師になってもらったことがある。ボランティアの養成講座を開き、多くの人々が巣立っていった。10 年間活動されて、まなびんぐや地域の町内会等で活躍している人もいる。10 年経ち、新しい人材がほしいところだが、世相も変わってきている面と変わらない面がある。宇治市はベッドタウンなので、都市に働きに出て、地域のことを知らないからと、退職後に地域に目を向け始める人がいる。団塊の世代が多くなるにつれ、逆に地域活動をしたい人を発掘できていない。地域デビューしてもらうために、市内の団体や活動を冊子にしたり、活動しているグループの人たちに講座に来てもらって呼び掛けたりしている。新聞社とも協力して広報したところ、本人よりも親族からの反応があり、同席するなど講座当日は何人になるかわからない状況。講座では、大抵 20～30 人が集まり、参加者の話を聞いて、そこで終わってしまう。効果の有無がわからず、各人が個々にやりたい

第 6 期宇治市生涯学習審議会 会議録

ことがあるので、既存の活動をうまくコーディネートすることができない。それでいいのか不安になるが、地域に関心を持ってもらうことが重要ではないかという意見もある。一度のぞいてもらって意見等をいただきたいと思う。

(委員)

後継者の問題は大きい。人を育てる仕組みを作るのは大きなテーマだ。スポーツ関係では組織が回っているのは後継者がいるということか。

(委員)

それでも高齢化が顕著である。5年経ったらどうなるのかと感ずることはある。

(委員)

ボランティアでも継続性が問題になる。仕事との両立や受け入れ先の体制によって継続できない人がいる。スポーツボランティアは新しいボランティアの形だ。コーディネーターを育てることも肝心だ。スポーツをテーマにするならボランティアなど、支える人を育てることが大事なことだ。組織づくり、仕掛けづくりについての提案は具体的なものになると思う。

(委員)

学校に入り込んでいく人を作るというのは、学校教育・社会教育・家庭教育の連携を考えるためには必要だと思う。学校に地域の人がどのくらい入っているのか聞いてみるとほとんどいなかった。部活動に1,2人程度。興味がないのか、ニーズに合っていないのか、いろいろ原因は考えられる。小学校には中学生、中学校には高校生など、市内には高校も大学もあるので、若い子が行くのがいいと思う。

(委員長)

それにもコーディネート力が必要だと思う。

(委員)

今年の成人式に出席してきたが、実行委員はじめ各団体に若い人がいる。若い人には、仕事を指示するよりも、裁量ある役割を任せてしまった方がいいのではないかと思う。行政の運営に関してもそうだと思う。私もまなびんぐでお手玉遊びをしたが、地域の懇談会でも、生徒会などの子どもたちと話す機会がある。その際に学校の温度差を感じる。

(委員)

任せるには我々の世代も変わらなければいけない。自分でやった方が早いと思ってつい行動してしまうので。

(委員)

宇治小学校で児童傷害事件が起こり、以来学校の門は固く閉ざされてしまったが、これは良くないと思う。昔は校庭に道があり、リヤカーが通っていた。学校は地域で作るものであり、地域のものだった。学校に入りやすいと文化が生まれる。地域で活動している人の中には、いろんな分野の達人がいる。ボランティアで東北地方に行ったとき、チーム編成の際に各人の得意分野を聞いて、違う分野の人同士を組ませるとうまく機能した。

(委員長)

今回出たタイトルで、決定とはしないが、詳細な方向性を次回に決めたい。過去の審議会の報告書を見て、議論を進めていきたい。

(事務局)

3. その他

・宇治市生涯学習審議会条例の一部改正について

3月議会で上程される予定。権限委譲の一環で社会教育法の改正に伴って改正するもの。施行されれば当審議会の委員はすべて社会教育委員となる内容である。

・宇治市「社会教育の重点」について

教育委員会での審議のあと、各委員に資料を送付する。今後の教育行政の指針となるものなので、意見等を募りたい。

・宇治市教育委員会の所管する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書（平成24年度実施事業）について

生涯学習部門に関する評価の部分のみ抜粋して報告。

(委員)

最後に質問だが、宇治市では障害者のスポーツ推進員はいるのか。障害者がスポーツ施設に来られた場合はどのように対応するのか。

(事務局)

障害者の推進員はいないが、障害者に対する指導の資格を持った人はいる。

< 次回の会議について >

平成26年4月25日(金)午後2時00分から